



銭湯であそぼう！

市民・NPO・行政・企業の連携で 子育て応援イベントを開催

東 京都市東村山市を拠点に子育て支援事業を展開するNPO法人ソーシャライズ（片山啓吾代表）は8月26日、市民・NPO・行政・企業との連携で、主に家庭で育児をしている就学前の乳幼児と保護者を対象に、子育て応援イベント「銭湯であそぼう！」を開いた。銭湯を舞台に繰り広げられたぬくもりの一日をレポートする。



高い煙突に瓦屋根。昭和の銭湯の風情そのままの久米川湯は1961年の開業。イベントに合わせて背景画職人が男湯に富士、女湯に瀬戸内海を描いた。



当日は湯舟なども使いさまざまなプログラムが行われた。右下は市民サークルによるオカリナ演奏、左上はエプロンシアターのようす。出演した市民は年配者が多く、3世代交流の場にもなった。

久米川湯2代目店主の金子浩さん（45歳）は子ども時代の光景をこう語る。

「銭湯の内も外も子どもでもであふれていた。赤ちゃんのいるお母さんが洗髪する間に子守役を買って出る近所のおばちゃん。湯をぬるくしようとして先輩者に叱られる子ども。私の役目は親より先に風呂から上がった子どもたちの遊び相手だった」

かつて銭湯は地域コミュニティの核だった。そこには子育て支援の機能もあった。今回のイベントは、そんな当時の様子を覚えていた金子さんが、久米川湯の常連客でもあるソーシャライズ代表の片山さん（31歳）と語り合う中から生まれた。

今年3月には市内のNPOや市民団体と協働でプレイイベントを実施。今回は市内の子育て総

合支援センターなどの協力を得たほか、市内事業者の協賛や市の後援も取り付けた。特筆すべきは協力・協賛・後援の各主体がスタッフや備品提供、出店など人的・物的の両面にわたる支援に取り組んだ点。また、白梅学園大学子ども学科の学生9人もボランティアスタッフとして企画運営に協力。プログラムにも出演するなど大活躍した。

プログラムは午前中が主に0歳から3歳向け、午後が3歳から6歳向けという構成。女湯をステージに、オカリナや琉球三味線の演奏、マジック、腹話術、エプロンシアターなどが行われ、脱衣場にはカフェも設置された。男湯では、脱衣場で折り紙教室などが開かれたほか、湯舟を使った銭湯ならではの水あそびやスイカ割りが行われた。屋外で

は協賛企業等による出店や木工教室などが開かれ、名物の黒焼きそばは200食を完売した。

当日の参加者は親子合わせて約240人。事前申込制にできなかったため、告知看板を見て通りすがりに参加した親子も多く、子どもどころか自分も銭湯初体験という親がほとんどだった。

「久米川湯が3世代の人たちでぎっしり埋まったのは30年ぶり。昔はこれが当たり前の光景だった」と金子さん。イベントの言い出しっぺの片山さんも「年齢や世代を超えたコミュニケーションの場、受け継がれてきた知恵や経験を共有する機会。それらが失われつつあるのなら地域みんなの力でまたつくればいい」と語る。その「場」が銭湯であり、「機会」がイベントというわけだ。

◆取材・文/杉元政光

※NPO法人ソーシャライズ URL : <http://www.sociarise.or.jp/>